

平成 22 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（A）  
 研究期間：平成 18 年度～平成 21 年度  
 課題番号：18202006  
 研究課題名（和文） 観世文庫所蔵能楽関係資料のデジタル画像化と解題目録作成に向けた総合的研究  
 研究課題名（英文） A Comprehensive Study for Producing the Catalogue and Digitalized Archive of the Noh Related Materials in the Kanze Bunko Collection  
 研究代表者  
 松岡 心平（MATSUOKA SINPEI）  
 東京大学・大学院総合文化研究科・教授  
 研究者番号：70173812

研究成果の概要（和文）：本研究は、観世文庫が所蔵する貴重な能楽関係文献資料の調査・整理・保存・公開によって、今後の能楽研究の発展の基礎を築いた。資料はマイクロフィルムに撮影・保存したうえで、これをデジタル画像化し、文献調査に基づく書誌情報と統合してデータベース化した。これはデジタルアーカイブとして Web 上に公開され、資料が世界中から検索・閲覧可能になった。さらに「観世家のアーカイブ展」の開催を通じて、研究によって得られた知見の普及をはかった。

研究成果の概要（英文）：In this study, we founded the base of the development of further Noh studies through archiving the Noh related Materials in the Kanze Bunko Collection. The documents of the collection are microfilmed and then converted into digital images. We construct the document image database that is published on the Web and is accessible through the internet. In addition, We held a special exhibition titled “The Kanze School Archive” as an outreach event of this project.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	7,500,000	2,250,000	9,750,000
2007 年度	14,900,000	4,470,000	19,370,000
2008 年度	6,700,000	2,010,000	8,710,000
2009 年度	7,700,000	2,310,000	10,010,000
総計	36,800,000	11,040,000	47,840,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：日本文学、デジタルアーカイブ

## 1. 研究開始当初の背景

観世文庫は、主に観世宗家から寄贈・寄託された同家伝来の能楽関係資料から成る。資料は能面、装束類、文書典籍の三種に大別さ

れ、所蔵数は当初把握されていただけでそれぞれ二～三千点に及び、世阿弥自筆本、代々の観世大夫関係文書、古面や古装束といった、室町期以来の貴重な資料が含まれる。同文庫は、規模・質ともに能楽に関する最重要の資

料群を有し、さらに面や装束、型付などの多くが現在でも能楽の実演に際して使用される「生きた資料」であるという、ユニークな特性をも備えている。

こうした資料が能楽の歴史や実演の研究に与える恩恵ははかりしれないものがあるが、従来これに対する調査は部分的なものにとどまり、資料の全体像の把握にすら至っていなかった。また、現在でも観世流の演能活動に実際に用いられるという事情から、研究者がこれを閲覧・調査する機会もきわめて限定されていた。

このように、その研究上の価値の高さにもかかわらず、この資料群は、実際に研究に活用することが困難な状況にあったのである。

## 2. 研究の目的

以上のような状況をふまえ、今回は特に文献資料を対象に以下のような研究プロジェクトを実施し、今後の世界的な能楽研究発展の礎を築くことを目的とした。

(1) 観世文庫所蔵能楽関係文献資料(6,000点)に対する包括的な書誌調査を実施してその全貌を明らかにする。

(2) 全資料をマイクロフィルムに撮影して恒久的な保存をはかるとともに、これらをデジタル画像化して、書誌情報と関連づけたデータベースを構築する。

(3) 上記データベースをデジタルアーカイブとしてインターネット上に公開し、世界中から文献資料を検索・閲覧可能にする。

(4) 解題目録を刊行する。

(5) アーカイブ構築の過程で得られた観世文庫所蔵資料に関する知見を、メディアや展覧会などを通じて積極的に発信する。

## 3. 研究の方法

(1) 最初に、研究分担者と、若手の能楽研究者を中心とする研究協力者による二十名余りの調査チームにより、包括的な書誌調査をおこなう。全資料にユニークな資料番号と仮書名をつけるとともに、寸法、丁数、装訂などの基礎的な書誌情報をカードにまとめて、データベースソフト(FileMaker)に入力し、書誌データベースを構築する。

(2) 以上の作業をふまえ、専門の業者による資料撮影をおこなう。文庫独自の資料価値

が低いと思われる近代公刊書籍等をのぞき、全資料についてモノクロマイクロフィルム撮影をおこなう。マイクロフィルムは長期保管用である。次に、ウェブ公開用のデジタル画像を作成する。特に色彩が重要な資料についてはデジタルカラー撮影をおこない、それ以外の資料については、マイクロフィルムからのスキャニングによってデジタル画像を得る。デジタルイメージはKmView形式で圧縮し、インターネット上で軽快に閲覧できるようにする。

(3) 上記作業によって得られた資料のデジタル画像を研究分担者・協力者に配布し、各自のパソコンモニター上でこれを解読して解題を執筆する。解題情報は書誌データベースに統合し、これをもとに冊子体の解題目録の刊行を目指す。

(4) デジタル画像と解題を含めた書誌情報が揃った段階で、東京大学情報基盤センターのサーバー上にデジタルアーカイブを公開する。専門の業者に委託し、キーワードで資料を検索し、画像を閲覧できるシステムを構築する。

(5) 東京大学駒場博物館における観世文庫所蔵資料の展覧会開催、シンポジウムの開催、出版物での資料紹介などを通じ、今回の調査の成果を広く社会に公開する。

## 4. 研究成果

上記「3. 研究の方法」の(1)～(5)のそれぞれに対応するかたちで、以下に成果を述べる。

(1) 研究開始時点で把握されていた3,000点のおよそ2倍にあたる6,000点あまりの資料が同定され、データベース化された。従来雑然と収蔵されていた資料が、専用の資料保管箱によって番号順に整理され、それがデータベースの資料番号と対応づけられた。アーカイブとしての基本機能である資料管理を確実にこなう体制を実現したことは、大きな成果であった。

一方、次々と観世家から新出資料が報告されたために、それらに対する書誌調査が最終年度に至るまで随時おこなわれ、結果的に資料撮影以下のスケジュールが後にずれこむ結果となった。現時点でもまだ書誌調査がおこなわれていない資料が出現しており、引き続き調査をおこなう必要がある。

(2) 写真撮影は国際マイクロ写真工業社に委託し、質の高い写真画像を得ることができ

た。撮影は 19 年度中に終了する予定であったが、上記の事情により、結局最終年度である 22 年度まで、撮影がおこなわれた。

(3) 上述したように、資料の増大にともない、書誌調査と写真撮影のスケジュールが延びたために、資料を解読し解題を作成する時間を十分に取ることができなかった。そのため、解題作成は全資料の半分程度にとどまり、解題目録を刊行することができなかった。作成した分の解題は、下記「観世アーカイブ」で読むことができるようになっている。

(4) 2009 年 10 月に、東大情報基盤センターのサーバー上で、「観世アーカイブ」を公開し、世阿弥自筆本をはじめとする文献のほとんどが、世界中から検索・閲覧可能になった。これは新聞やウェブなどの各種メディアで取り上げられ、もっとも閲覧困難だった貴重資料の大胆な公開と、その高い利便性に対して、内外の研究者から高い評価を得ている。

(5) 2009 年月 10 月 10 日～11 月 29 日の日程で、東京大学駒場博物館において展覧会「観世家のアーカイブ—世阿弥直筆本と能楽テキストの世界—」を開催した。展覧会は上記「観世アーカイブ」と同じタイミングで開始され、オープニングイベント「東大駒場薪能」とあわせて新聞各社で大々的に紹介された。これによって、多数の学生や一般市民に観世文庫所蔵資料の重要性と、今回の研究の意義を知ってもらうことができた。展覧会にあわせて、観世清和氏（観世流宗家）などを迎えたシンポジウムや、研究分担者によるギャラリートークもおこなった。

調査や展示を通じて数多くの貴重な資料の存在が判明したが、雑誌『観世』2009 年 4 月号以降、毎号の巻頭において、「観世文庫の文書」と題した記事でこれらを紹介している。そのほか、デジタルアーカイブ公開から間もないけれども、すでにこれを活用した研究成果が出始めており、今後ますますの活用が期待される。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 6 件)

- ① 横山太郎「身体の近代—三世井上八千代と観世元滋」『表象』4 号、査読無、2010 年、77-93 頁。
- ② 横山太郎「観世家のアーカイブ」『観世』76 巻 10 号、査読無、36-39 頁、2009 年。
- ③ 高桑いづみ「世阿弥自筆本の節付を考える—「難波梅」から「盛久」「江口」ま

で」『無形文化遺産研究報告』2 号、査読無、2008 年、286-265 頁（縦組みのため頁逆順）。

- ④ 松岡心平「世阿弥の身体論—漢文で書くこと」『古典日本語の世界—漢字がつくる日本』(東京大学出版会)、査読無、2007 年、155-183 頁。
- ⑤ 横山太郎「檜垣蘭拍子—その歴史と可能性」『観世』74 巻 9 号、査読無、2007 年、28-38 頁。
- ⑥ 松岡心平「花の時代の演出家たち」『ZEAMI』4 号、査読無、2007 年、30-37 頁。

[学会発表] (計 2 件)

- ① 落合博志「飯田市立図書館蔵金春喜勝節付百番謡本について—付 喜勝謡本年代考—」能楽学会、2008 年 3 月 22 日、早稲田大学。
- ② 横山太郎「世阿弥と近代能楽—坂本雪鳥と野上豊一郎を中心に—」能楽学会、2008 年 3 月 22 日、早稲田大学。

[図書] (計 1 件)

- ① 松岡心平 (編)、小川剛生ほか、森話社、『看聞日記と中世文化』、2009 年、369 頁。

[その他]

ホームページ等

- ① 観世アーカイブ

<http://gazo.dl.itc.u-tokyo.ac.jp:8080/kanzegazo/index.html>

資料紹介

- ① 松岡心平監修「観世文庫の文書」1-12 (『観世』表紙裏に掲載。2009 年 4 月～2010 年 3 月)

座談会記事

- ① 観世清和、松岡心平、小川剛生「世阿弥からの継承—観世文庫の資料調査と公開—」『観世』77 巻 1-2 号、2010 年 1-2 月。

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

松岡 心平 (MATSUOKA SHINPEI)

東京大学・大学院総合文化研究科・教授  
研究者番号：70173812

(2) 研究分担者

天野 文雄 (AMANO FUMIO)

大阪大学・文学研究科・教授  
研究者番号：90201293

磯田 道史 (ISODA MICHIFUMI)  
茨城大学・人文学部・准教授  
研究者番号：00375354

小川 剛生 (OGAWA TAKEO)  
慶應義塾大学・文学部・准教授  
研究者番号：30295117

落合 博志 (OCHIAI HIROSHI)  
国文学研究資料館・文学形成研究系・准教授  
研究者番号：50224259

高桑 いづみ (TAKAKUWA IZUMI)  
独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所・無形文化遺産部・無形文化財研究室長  
研究者番号：60249919

高橋 悠介 (TAKAHASHI YUSUKE)  
神奈川県立金沢文庫・研究員  
研究者番号：40551502

竹本 幹生 (TAKEMOTO MIKIO)  
早稲田大学・文学学術院・教授  
研究者番号：90138181

橋本 朝生 (HASHIMOTO ASAO)  
山梨大学・教育人間科学部・教授  
研究者番号：30091838

姫野 敦子 (HIMENO ATSUKO)  
清泉女子大学・文学部・講師  
研究者番号：90334268

宮本 圭造 (MIYAMOTO KEIZO)  
法政大学・能楽研究所・准教授  
研究者番号：70360253

山中 玲子 (YAMANAKA REIKO)  
法政大学・能楽研究所・教授  
研究者番号：60240058

横山 太郎 (YOKOYAMA TARO)  
跡見学園女子大学・文学部・准教授  
研究者番号：90345075